

玖珠町地域公共交通総合連携計画（素案）

一月十九日に開催された「玖珠町地域交通協議会」で『玖珠町地域公共交通総合連携計画』がまとまりましたので、玖珠地区に関する内容をお知らせします。

この計画は、バス利用者の減少、町の財政負担の増加、交通空白地域への対応など多くの課題を克服するために計画するもので、次の3つを目標としています。

1. 住民ニーズにあった運行で、利便性向上と利用者の増加を図る。
2. 地域の実情にあった効果的運行で、町の財政負担水準を維持する。
3. 日常生活を支える最低限の公共交通サービス

玖珠地区では、森中泊里〜下園の路線バスで、ダイヤの改善やルートの改善等を検討しつつ、三年を目途に福祉バス化をめざします。

また、鎗水・早水エリア、横道・上庄屋エリア、荻原・花香エリア、秋畑・大原野エリアについては、準備が整い次第ふれあい福祉バスの実証運行を計画しています。

なお、これらを実施するに当たっては、別途、地域の方々や関係者と十分な協議を行うということとです。（玖珠地区は二月五日に、自治委員会へ説明会を行います）

この計画（素案）は、役場や自治会館で閲覧できますので、ご意見のある方は、町の地域力創造課までお願います。

（72・1151）



【表1】路線バス運行エリア

路線バス（森町〜中泊里〜下園）	現 状	将来（中長期）	平成22年～24年		備 考
			実証実験 対応の方向性 ・取組み内容	取組み内容	
◆定期路線バス ◆定員25名以上のバス ◆週5日平日運行 ◆1日当たり4便運行 ◆森町〜中泊里〜下園の運行ルート	◆福祉バス化（定期定期路線） ◆曜日・便数限定運行（ダイヤの改善） ◆通学に利用される区間の維持 ◆荻原・花香エリア・秋畑・大原野エリアへの乗り入れ（ルート改善） ◆主要施設への乗り入れ（ルート改善）	福祉バスの検討	○現行路線バスのダイヤ及びルート改善の効果検証結果等を踏まえた福祉バス本格運行の検討	○今後3年間に実施する現行路線バスの改善効果を踏まえ、最終年度に運行システムの改善も含め福祉バスの本格的運行を検討	
		現行路線バスのダイヤ改善	○現行路線バスの帰宅便に視点を置いたダイヤの改善 ○改善の効果検証の実施 ○効果検証結果や地域状況を踏まえ路線バスの曜日・便数限定運行を実施	○2年目に帰宅便のダイヤ改善を実施 ○2～3年目に曜日・便数限定運行を実施	
		現行路線バスのルート改善	○通学区間や利用の少ない区間、周辺集落・主要施設への乗り入れなどを踏まえた現行路線バスのルート改善 ○改善の効果検証の実施・見直し	○1年目から可能なものから改善を実施（ただし周辺集落への乗り入れは段階的な実施を想定）	

【表2】交通空白地域

路線・エリア	現 状	将来（中長期）	実 証 実 験		備 考
			対応の方向性	取組内容	
鎗水・早水エリア	◆交通弱者は少ないが、外出は極めて多い	◆新たなふれあい福祉バス導入 ◆対象エリアが広範囲となることから、具体の運行ルート・運行エリアごとの運行曜日の設定など地元調整が課題	○新規ふれあいバスの運行【実証運行の実施】	○新規のふれあい福祉バスの実証運行の実施 ○実証運行の効果検証の実施・見直し	○1年目から実証運行を実施 ○2～3年かけて地元意向調査の実施、運行形態の改善を検討・実施 ○最終年度に本格運行に向けた検討を実施
横道・上庄屋エリア	◆交通弱者が多く、外出も多い				
荻原・花香エリア	◆近隣を森町〜中泊里〜下園系統が運行	◆既存路線バスによる乗り入れ ◆具体の運行ルートなどが課題	○現行路線バスの乗り入れ【ルート改善】	○現行路線バス（森町〜中泊里〜下園系統）の乗り入れ実施 ○改善の効果検証の実施	○1年目から可能なものから改善を実施
秋畑・大原野エリア	◆近隣を森町〜中泊里〜下園系統が運行	◆路線バス（森利町〜下園系統）の福祉バス化に伴う周辺に位置する荻原・花香エリアからのルート延伸 ◆過去に福祉バスを運行させたが、利用者が少なく廃止に至った経緯があること等を踏まえ、地元住民の意向や移動実態の詳細把握などが課題	○ふれあい福祉バス化に伴うルート延伸（ルート改善）に向けた検討	○地元意向の詳細把握 ○現行路線バス（森町〜中泊里〜下園系統）の福祉バス化に伴う乗り入れ検討	○3年目に、路線バス（森町〜下園系統）の福祉バス化の検討状況や荻原・花香エリアへの乗り入れ状況等を踏まえ、対応を検討